

# 九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.402

2024(令和6)年1月5日(金)発行

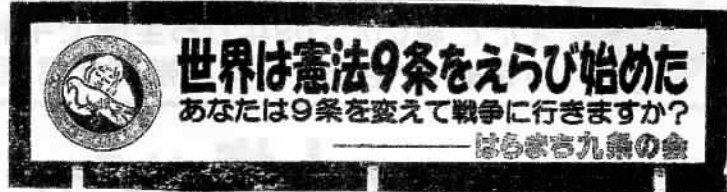


■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法9条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でも入会できます。■ 結成は2005年12月。会員は南相馬市原町区を中心に363名。■ 会費は年千円。隔月で会報を発行しています。

◀本会のシンボルのシール「鳩を抱く少女」：デザイン 故・朝倉悠三さん

原町区錦町の県道沿いの「9条の看板」2008年8月15日終戦記念日に建立されました

○日本国憲法第9条「戦争の放棄・戦力の不保持・交戦権の否認」を世界に拡大し、もう戦争の時代ではないことを訴え、外交力で地球上から戦禍をなくすのは日本政府の責務です。



## 戦争のない明るい社会を目指して

### 新年の挨拶

はらまち九条の会会長 平田慶肇



あけましておめでとうございます。

昨年中はコロナ騒ぎと原発事故処理水の海洋放出の件、更には安倍派による派閥パーティの巨額裏金問題などなど、一方海外ではロシアによるウクライナ侵攻とイスラエルとハマスの悲惨な紛争など、毎日暗いニュースで明け暮れた一年だったように思います。

中でも原発事故処理水の放出問題はこれからも永く継続される問題です。厳しく注視して行かなければなりません。最近明らかになったことでは、日本が戦争関連の武器製造、輸出を実施とのこと、明らかに憲法違反?ではないのか。防衛力の増強から反撃能力の強化の名のもとに段々なし崩し的に戦争に向かって突き進んでいるのではと危惧されます。一番戦争の恐ろしさを知っていた筈の日本国民が次第に戦争の波に流されて抜き差しならない事態になるのではないかと心配でなりません。

あらためて本年も私達は日本国憲法第九条を守り、戦争のない明るい社会を目指して皆さんで一致協力して頑張ってください!

## 『「九条はらまち」集録③』(No.271~401)を出版

昨年12月の本会設立満18年と会報『九条はらまち』のNo.400達成を記念し、会報No.271からNo.401までを『集録③』として12月7日に出版しました。各会報と郵送封筒に記載のことはも掲載、全278ページ。

50部だけの少数の出版ですが、ご希望の方は事務局員に早めにお申し出ください。

微力な市民運動の記録ですが、公立の図書館や資料館などに寄贈します。



## 今年こそ、武力でなく対話で平和な世界に

理性や良識、平和の時代のはずなのに、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマスの悲惨な戦争が続いています。私たちひとりひとは無力でも声を出しあえばやがて大きな力になって、戦争を止めさせることにつながると信じます。

○守らなければならないのは国ではなく、まず命です。「戦争放棄」を条文に定めた平和憲法を持つ日本だから、世界に言えます。(加藤登紀子2023. 11. 12『朝日新聞』)



○元イスラエル兵のダニー・ネフセタイさん「死にたくなければ相手を殺すしかないと考えていた。1979年日本に旅行し、日本人の優しさや治安の良さに引かれ移住。憲法9条を知り、祖国イスラエルと正反対の考えだと驚いた。09年から全国で平和の講演、「武力ではなく対話で平和を築くべきだ」と熱を帯びた言葉で話す。(2024. 1. 5『朝日新聞』)

## この人たちの人権がずっと無視されたままです

### 日本政府は努力しているのか 私たち国民ができることは...



●北朝鮮による拉致被害者横田めぐみさん(59)の母早紀江さん(87)めぐみさんは1977年に中1(当時13)で拉致されてもう47年。日本政府は17名の拉致者を認定し、うち5名は帰国。さらに873名が拉致の可能性を排除できないとしている。母の早紀江さんは夫の滋さんも2020年に亡くなり、昨年の会見で「もうくたびれきった」と疲労をにじませた。

●ミャンマー民主化運動のリーダーアウンサンスーチーさん(78) 2021年2月のクーデターでミャンマー国軍に拘束されたまま、刑期計33年の判決を受けています。



●香港の民主活動家 周庭(アグネス・チョウ)さん(27)「民主の女神」と呼ばれ、独学で学んだ流暢な日本語にも驚かされます。昨年9月、カナダに留学で滞在し、おそらく一生香港には戻らないことをSNSで公表しました。一方、香港では反中国的な言動を取り締まる香港国家安全維持法(国安法)で監視も厳しく、政府トップは周さんに対し「自ら出頭しない限り、生涯にわたって追跡する」と警告しています。

●ロシアの反政権派指導者 アレクセイ・ナワリヌイ氏(47)

昨年12月22日付の新聞情報ですが、モスクワ東方のウラジミール刑務所に収監されていましたが、2週間以上所在不明となっていて、今年の大統領選に向けてプーチン政権が「批判封じや排除」に動いた可能性もあるということです。陰険なプーチンですから毒殺などが心配です。



●イランの人権活動家 ナルゲス・モハンマディさん(51)

昨2023年ノーベル平和賞を授与されますが本人は刑務所に収監中なので、12月10日ノルウェーのオスロ市庁舎の授賞式にはフランスに亡命中の17歳の双子の娘と息子が出席し、「民主主義の実現には人権の実現が不可欠だ」というモハンマディさんの声明を代読した。

